

---

# 第6回 手稻山口地域協議会

【日時】 令和5年2月26日（日）13:00～  
【会場】 山口処理場管理棟 会議室



---

## 次 第

### 1 開 会

### 2 参加者確認

### 3 工事の現状と今後の見通しについて

### 4 報告事項等

### 5 今後の地域づくりについて

#### (1) オリエンテーション

- 1 地域協議会の役割
- 2 令和4年度の進め方
- 3 前回までの振り返り
- 4 本日の話し合い

#### (2) グループワーク

- 1 「手稻山口地区・地域づくり方針（案）」のまとめ
- 2 次年度の進め方について

#### (3) 全体共有とまとめ

- ・各グループのご意見紹介

### 6 その他

- ・次年度の協議会開催予定

### 7 閉会

## 手稲山口受入地の工事進捗と今後の予定について

平素から、北海道新幹線事業にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。手稲山口受入地工事の進捗状況と今後の予定についてお知らせいたします。

### 〇工事の進捗状況と今後の予定について

先日、戸別配布により周知させていただいた現地発生土（地盤改良により、受入地の土砂が盛り上がり発生する土砂（無対策土））の一時運搬については、2月下旬より開始しました。この現地発生土は当工事ですべて再利用するため、都度、受入地内へ再搬入します。

トンネル発生土（対策土）の受入れ及び遮水壁の施工を継続するとともに、冬期間中止していた地盤改良及び遮水シートの施工については、令和5年4月から再開します。



受入地全景（南西側から北東側を望む）（令和5年1月）

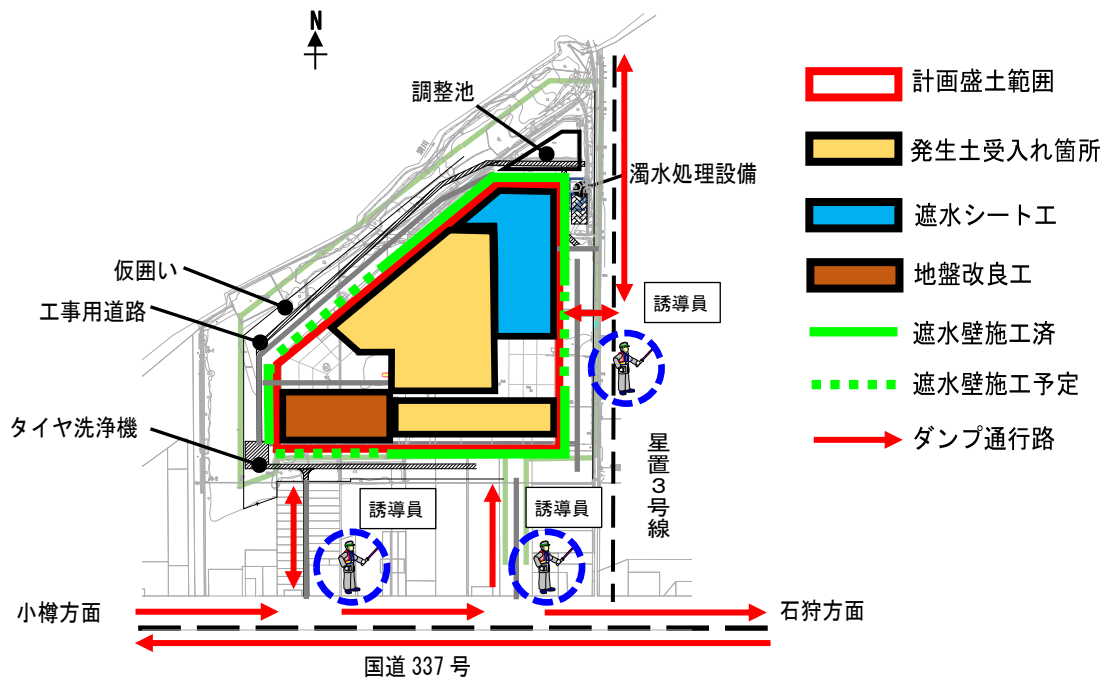


遮水壁施工状況（令和5年1月）

### 令和5年6月までの主な作業

	3月	4月	5月	6月
地盤改良				
遮水シート				
発生土受入れ				
遮水壁工				
現地発生土運搬				

（裏面に続きます）

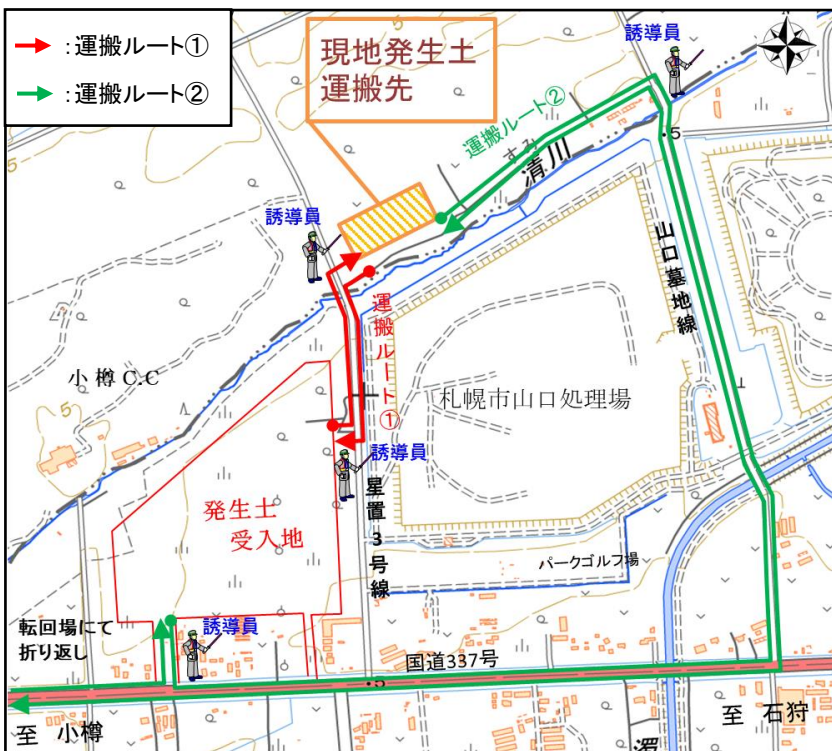


### ○安全・環境対策

3月以降の発生土を搬入するダンプトラックの台数は、1日最大400台程度を予定しています。また、遮水壁などの資材を運搬するための大型車両の通行や現地発生土の搬入・搬出も予定しており、当面の間、国道337号を通行するダンプトラックは1日で最大600台程度の通行が見込まれます。

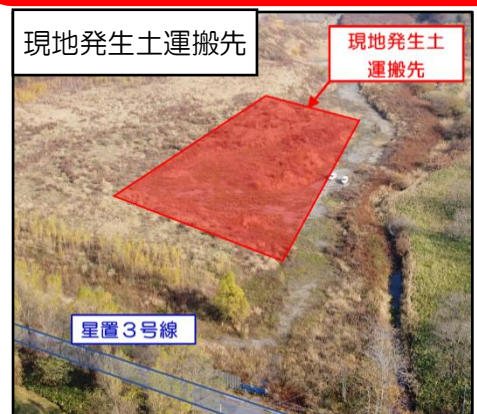
なお、今月から開始している現地発生土の運搬では、通常は星置3号線（運搬ルート①）の通行を予定しており、1日最大100台程度の通行が見込まれます（運搬ルート②については工事の進捗に伴い、夏季に使用場合があります。）。

道路出入口には誘導員を配置するとともに、車両の運転者に対して「歩行者・一般車両最優先」の教育を徹底し、引き続き安全に十分配慮します。



**※「現地発生土」とは**

- ・地盤改良により、周辺の土砂が盛り上がり発生する土砂です。
- ・受入地内からの発生土であり、トンネル発生土（対策土）ではありません。





ダンプトラック荷台シート被覆状況



タイヤ洗浄状況

発生土を運搬するダンプトラックは、荷台をシートで覆い、運搬時の飛散防止に努めるとともに、受入地から出る際には、タイヤ洗浄機でタイヤをきれいにし、公道を汚さない対策を徹底しております。

工事の進捗に関しては定期的にお知らせします。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

### 〇水質モニタリング

令和4年10月から令和5年1月までの水質調査結果では、地下水⑤、河川水R①、河川水R②の3箇所で基準値を超過しました。地下水⑤の採取地点は、地下水の流れから受入地より上流側に位置しており、ヒ素の基準値超過は、ヒ素を含む土壌が広く分布している札幌市の地域特性に起因したものであると考えられます。

河川水R①及びR②は、発生土受入前の令和3年7月及び9月の水質調査において、ヒ素の基準値超過を確認しており、地下水⑤と同様に地域特性に起因したものと考えております。水質モニタリングを継続し、環境への影響を注視してまいります。



- 凡例
- 受入地範囲
  - 地下水調査箇所
  - ▲ 河川水調査箇所

ヒ素検出状況

(単位 mg/L )

採取地点名	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1
地下水①	0.008	0.008	0.008	0.007
地下水②	0.006	0.006	0.005	0.004
地下水③	0.005	0.006	0.006	0.005
地下水④	0.003	0.003	0.003	0.002
地下水⑤	0.013	0.015	0.016	0.014
地下水⑥	0.005	0.007	0.006	0.005
河川水R①	0.017	0.005	0.003	0.002
河川水R②	0.016	0.010	0.006	0.006
河川水R③	0.001	0.001	0.001	0.001
	未満		未満	未満

基準値 0.01mg/L 以下

(裏面に続きます)

## ○粉じんモニタリング

令和3年12月1日から受入地と星置地区センターの2地点で粉じんモニタリングを実施しております。令和4年5月末から、粉じん防止剤の散布等の粉じん防止対策を強化し、以降の測定値は受入れ前と同程度で推移しています。今春以降も粉じん防止剤の散布や散水等の粉じん対策を引き続き実施してまいります。

総粉じん濃度（単位 mg/m<sup>3</sup>）

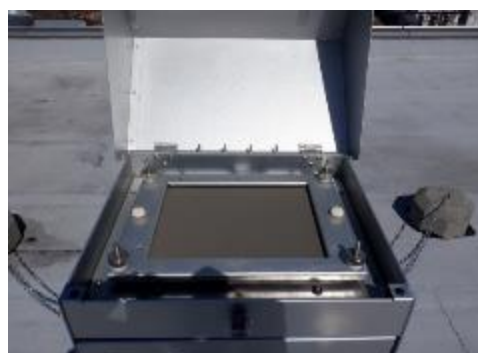
採取 地点名	R3. 2	R3. 4	R3. 6	R3. 12 前半	R4. 10 前半	R4. 10 後半	R4. 11 前半	R4. 11 後半	R4. 12 前半	R4. 12 後半
受入地	0.016	0.032	0.025	0.026	0.029	0.026	0.035	0.021	0.012	0.036
星置地区	—	—	0.024	0.021	0.024	0.025	0.027	0.020	0.011	0.023

← 受入れ前
→ 受入れ後 →

※総粉じん濃度とは、測定期間中に粉じん測定器で吸引して集めた粉じん量を体積で割って算出したものです。測定期間中の体積 1m<sup>3</sup> の中にある粉じん量です。



粉じん測定位置



粉じん測定器（星置地区）

今後も適切に工事を行うとともに、水質及び粉じんモニタリングを継続することにより地域環境の保全に努めてまいります。

### 【工事に関するお問合せ先】

鹿島・岩田地崎・荒井・森川

北海道新幹線、札幌トンネル（星置）特定建設工事共同企業体

電話：011-590-1375（担当：新明（しんみょう）、桜井（さくらい））

# 手稲山口

地域づくりに向けて

## 地域協議会

### 第6回

2023年2月26日（日）

13:00～

山口処理場管理棟 会議室

## オリエンテーション

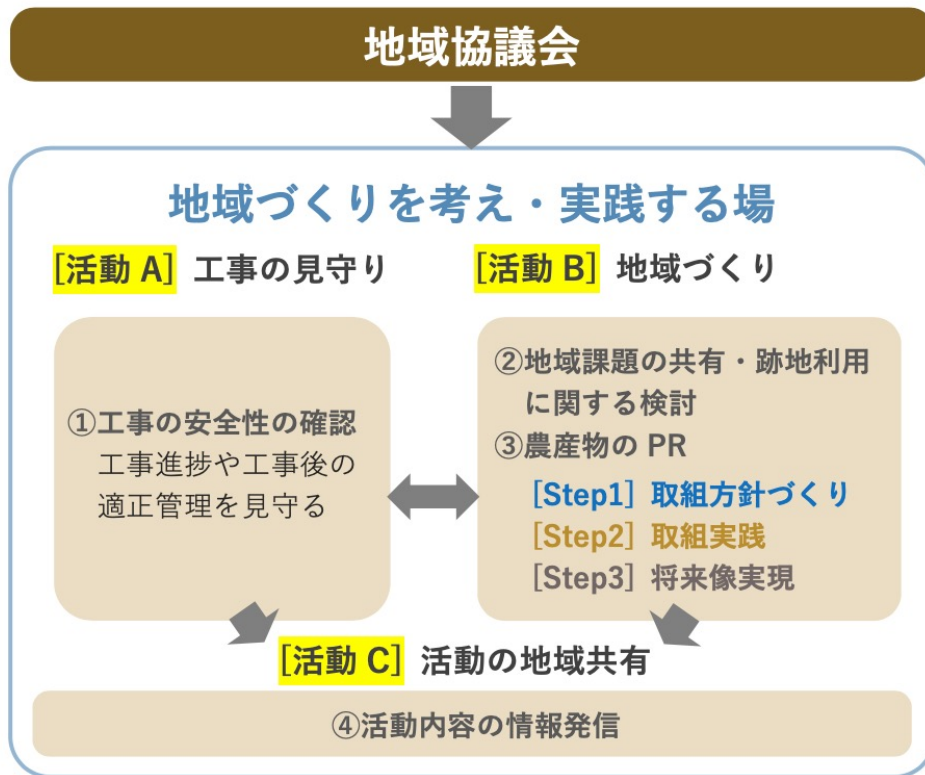
1

- 1 地域協議会の役割
- 2 令和4年度の進め方
- 3 前回までの振り返り
- 4 本日の話し合い

# 1 地域協議会の役割

2

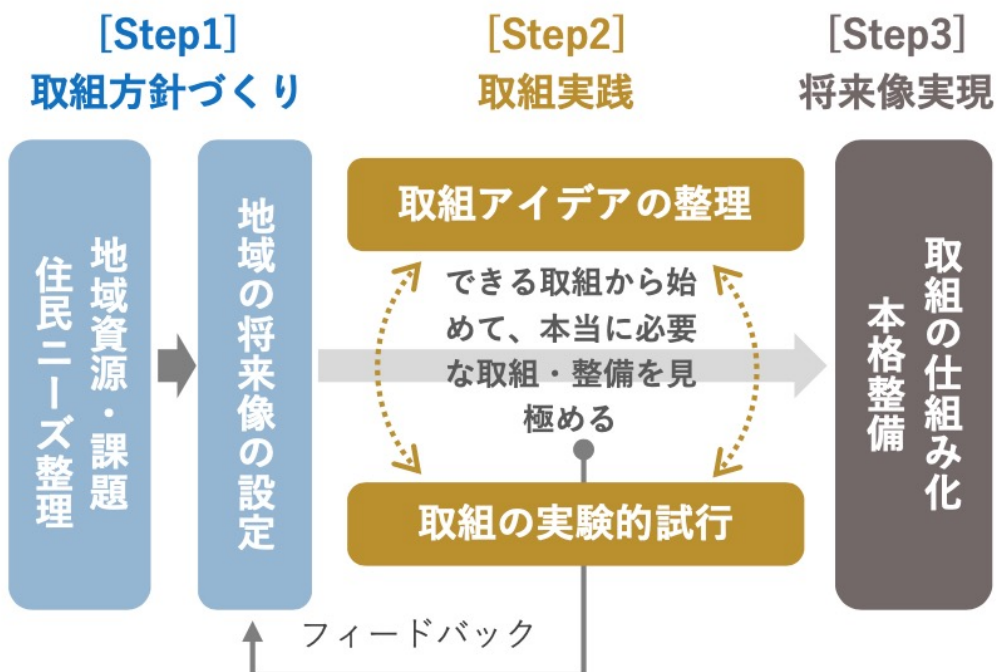
## 地域協議会の取組イメージ



# 1 地域協議会の役割

3

## 地域づくりのステップの例



## 2 令和4年度の進め方

4

6月 第3回協議会 ・手稲山口地区の魅力資源や課題の確認

10月 第4回協議会 ・地域づくりの方向性の確認

12月 第5回協議会 ・地域づくりの方向性と今後の取組の確認

### 本日の話し合い

2月 第6回協議会 ・令和4年度のまとめ（手稲山口地区の将来像）  
・これからの取組

※各協議会開催1ヶ月後を目処にニュースレターを発行

## 3 前回までの振り返り

5

いただいたご意見（魅力資源と検討課題）	地域づくりの方向性（案）
大浜みやこ、サッポロスイカなどの農産物は格別の美味しさ	手稲山口にしかない、 <b>地域産業</b> がある。 → <b>産業の価値を高める</b>
農家の直売所では新鮮な農産物を手ごろな値段で提供	
寒暖差がありおいしい農産物が育つ	
ブランド農産物の進化	
郷土芸能の風雪太鼓は札幌市内外からも演奏依頼がある	手稲山口にしかない、 <b>文化</b> がある。 → <b>大事な文化を継承する</b>
風雪太鼓の練習場所山口クラブの老朽化への対応	
農業振興地域の指定による土地利用の制限	手稲山口にしかない、 <b>恵まれた土壌</b> がある。 → <b>将来の土地利用を考える</b>
道の駅等の整備の検討	
山口緑地西パークゴルフ場の老朽化	
農家の担い手づくり	産業・文化・土壌を <b>支える人</b> がいる。 → <b>地域の担い手を育てる</b>
若い人たちに地域づくりについて意見を聞きたい	

■：検討課題



## 手稲山口地域協議会だより Vol.5

令和4年12月発行 手稲山口地域協議会事務局

### 第5回地域協議会を開催しました！

12月11日(日)に第5回地域協議会を開催しました。鉄道・運輸機構から、受入地の工事の状況と今後の予定などについて説明しました。また、来年度以降の協議会の進め方について確認した後、参加者8名がグループに分かれて、今後の地域づくりのために必要な取組について意見交換を行いました。



#### 話し合いの内容

- 1 工事の現状と今後の見通し
- 2 今後の地域づくりに向けた意見交換  
テーマ1 | 地域づくりの方向性を確認しよう  
テーマ2 | 今後の取組をしよう
- 3 各グループのご意見紹介



いただいたご意見は裏面へ

### 手稲山口地域協議会について

#### 手稲山口地域協議会の取組イメージ

手稲山口地区の地域づくりを考え・実践する場

工事の見守り ↔ 地域づくり

- 工事の安全性の確認
- 地域課題の共有・跡地利用に関する検討
- 農産物のPRなど

#### 活動の地域共有

- 手稲山口地域協議会だよりの発行

手稲山口地区の北海道新幹線トンネル掘削土受入地への発生土の受入れにあたり、工事の安全性の確認とともに、地域課題の共有を図り、住民向きの意見交換やそれに基づく活動を通じて地域の活性化に寄与することを目的に設置するものです。山口西町内会、山口東町内会から推薦された住民等で構成されます。

事務局として札幌市新幹線推進室と北海道新幹線の建設主体である鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局が参加しています。

### ● 第5回 地域協議会の主なご意見

#### 1 工事の現状と今後の見通し



- Q. 漏水壁の工事が始まっているが、大きな音が出ていることはないか。
- A. 周辺にお住まいの方々に確認しながら進めており、音が気になるという声は寄せられていません。
- Q. 漏水壁の工事はいつ頃まで続くのか。
- A. 冬の間も順次工事を進め、全体としては来年度の9月～10月に終了する見込みです。

#### 2 前回の協議会を受けたご報告

・山口緑地パークゴルフ場コースのトイレの改修(洋式化と簡易水洗化)を進めています。春には工事が終了する予定です。



#### 3 地域づくりについての意見交換

前回の協議会で整理した地域づくりの4つのテーマについて、これまでのご意見を確認しながら、今後の地域づくりのために必要な取組のアイデアなどを出し合いました。

##### 【産業の価値を高める】

- ・ブランド野菜の魅力の発信に加えて、都市近郊地域のメリットを活かした活気ある地域づくりが必要。
- ・国道から畑が見えないため、農業が盛んという特徴が感じられない、車で通過する地域となっている。
- ・海や山、ゴルフ場やスキー場に近いため、通過するだけでなく、車を降りて立ち寄れるような、農産物直売所やキャンプ場など、農業・観光・アウトドアを楽しめる場所ができると良い。
- ・カーボンニュートラルなど、新しい視点を取り入れながら、農業の取組を進めていけると面白い。
- ・農産物直売所には夏場に多くの人を訪れているため、仮設の施設でマルシェなどをやってみても良いのではないか。子ども達など、みんなが集まりくつろげるような場所ができると良い。

##### 【将来の土地利用を考える】

- ・現状の土地の使われ方や、耕作放棄地の割合などを調べてみることは大切である。そのうえで、課題や改善点について整理したい。
- ・自然豊かな場所で暮らしたいといった若い世代の移住地としての可能性もあるのではないか。
- ・農地を受け継いでいくためにも、現状に対応した土地利用の制度やルール作りが必要である。
- ・受入地の活用についても、地域づくりの取組と位置づけて検討していく必要がある。

##### 【地域の担い手を育てる】

- ・農業の新しい担い手を受け入れる取組が必要である。
- ・新しい取組を進めていくために、大学と連携していきたいと良い。学生さんの農業アルバイトの受入れなどにもつながっていくのではないかと。
- ・次世代を担うメンバーで実践に向けて話し合う機会を来年度からつくりたい。どんなメンバーで、どんなテーマで実施するかを考えられると良い。

##### 【大事な文化を継承する】

- ・拠点となる施設があれば、風雪太鼓の発表や練習の場に活用できるのではないかと。

### ● 今後の開催予定



- ・手稲山口地区の魅力資源や課題の確認
- ・地域づくりの方向性の確認
- ・今後の取組について確認
- ・令和4年度のまとめ

【お問い合わせ】 札幌市まちづくり政策局新幹線推進室新幹線推進担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階 TEL: 011-211-2978 FAX: 011-218-5112

### 3 地域づくりについての意見交換

前回の協議会で整理した地域づくりの4つのテーマについて、これまでのご意見を確認しながら、今後の地域づくりのために必要な取組のアイデアなどを出し合いました。

#### 【産業の価値を高める】

- ・ブランド野菜の魅力の発信に加えて、都市近郊地域のメリットを活かした活気ある地域づくりが必要。
- ・国道から畑が見えないため、農業が盛んという特徴が感じられない、車で通過する地域となっている。
- ・海や山、ゴルフ場やスキー場に近いため、通過するだけでなく、車を降りて立ち寄れるような、農産物直売所やキャンプ場など、農業・観光・アウトドアを楽しめる場所ができると良い。
- ・カーボンニュートラルなど、新しい視点を取り入れながら、農業の取組を進めていけると面白い。
- ・農産物直売所には夏場に多くの人を訪れているため、仮設の施設でマルシェなどをやってみても良いのではないか。子ども達など、みんなが集まりくつろげるような場所ができると良い。

#### 【大事な文化を継承する】

- ・拠点となる施設があれば、風雪太鼓の発表や練習の場に活用できるのではないかと。

#### 【将来の土地利用を考える】

- ・現状の土地の使われ方や、耕作放棄地の割合などを調べてみることは大切である。そのうえで、課題や改善点について整理したい。
- ・自然豊かな場所で暮らしたいといった若い世代の移住地としての可能性もあるのではないかと。
- ・農地を受け継いでいくためにも、現状に対応した土地利用の制度やルール作りが必要である。
- ・受入地の活用についても、地域づくりの取組と位置づけて検討していく必要がある。

#### 【地域の担い手を育てる】

- ・農業の新しい担い手を受け入れる取組が必要である。
- ・新しい取組を進めていくために、大学と連携していきたいと良い。学生さんの農業アルバイトの受入れなどにもつながっていくのではないかと。
- ・次世代を担うメンバーで実践に向けて話し合う機会を来年度からつくりたい。どんなメンバーで、どんなテーマで実施するかを考えられると良い。

前回までのご意見や参考事例をもとに、2つのグループに分かれて意見交換を行います。皆様のご意見をいろいろ教えてください！

## ① 「手稲山口地区・地域づくり方針（案）」のまとめ

- ・ 本日の意見を踏まえ、今年度の成果とします

## ② 次年度の進め方について

- ・ すぐにできる取組を進めてみてはどうか
- ・ 分科会等で話し合っって協議会で確認する形はどうか

## ③ 北海道科学大学との連携について

- ・ 大学との意見交換の内容のご報告

### 手稲山口地区・地域づくり方針（案）

地域づくりの方向性	取組方針	地域の取組例（案） ●時間をかけて検討が必要な取組    ・すぐに始められそうな取組
産業の価値を高める	都市近郊地域の農業の魅力やブランド農産物の魅力を発信していこう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常設の直売所・農業体験・加工施設等の設置・運営</li> <li>●既存の直売所や農産物の販売情報の発信（マップ・SNS等）</li> <li>●仮設の施設でマルシェなどのイベント</li> <li>●農業体験のイベント</li> <li>●大学との連携による農業のデジタル化・ブランディング等の研究</li> <li>●連携に向けて、大学や研究室へのアプローチ</li> <li>●観光・環境など都市近郊地域のメリットを活かした活気ある地域づくり</li> </ul>
大事な文化を継承する	風雪太鼓を多くの人に知ってもらい、継承していこう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>●練習場所や発表の場の充実（拠点施設の検討など）</li> </ul>
将来の土地利用を考える	豊かな農地を守りながら、地域の現状に合わせた土地利用を考えていこう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域に必要な土地利用の検討</li> <li>●耕作放棄地等の現状把握と課題・改善点の整理</li> <li>●土地利用の学びを深める勉強会</li> <li>●受入地活用について地域づくりの取組と位置づけて検討</li> </ul>
地域の担い手を育てる	大切な産業や文化を将来に受け継いでいくため、新しい仲間を増やしていこう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域づくりの連携先・仲間づくり</li> <li>●新しい担い手を受け入れる取組（発掘とアプローチ）</li> <li>●地域の企業や学校等連携先の発掘とアプローチ</li> <li>●新しい担い手や連携先との意見交換会</li> <li>●農業の担い手づくり</li> <li>●学生アルバイトやインターンの受け入れ</li> <li>●事例の勉強会・見学会</li> </ul>



進め方のイメージ

- ・分科会等で話し合っ協議会で確認する
- ・大学等、地域との連携を進める

## 手稲山口地域協議会 規約

### (名 称)

第1条 この会は、手稲山口地域協議会（以下「協議会」という。）と称する。

### (目 的)

第2条 協議会は、手稲山口地区の北海道新幹線トンネル発生土受入地（以下「発生土受入地」という。）への発生土の受入にあたり、工事の安全性の確認とともに、地域課題の共有を図り、住民同士の意見交換やそれに基づく活動を通じて地域の活性化に寄与することを目的とする。

### (活 動)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) 発生土受入地における工事状況の確認
- (2) 発生土受入地の盛土工事完了後の跡地利用の検討
- (3) 手稲山口地区の地域振興のための課題の共有
- (4) 協議会の活動内容の情報発信
- (5) その他協議会目的の達成のために必要な活動

### (組 織)

第4条 協議会は、次の者の中から、山口西町内会、山口東町内会が推薦する者をもって構成する。

- (1) 山口西町内会、山口東町内会の区域に居住する者
- (2) 山口西町内会、山口東町内会の区域内で農業、事業等を営む者
- (3) 山口西町内会、山口東町内会の区域内の学校、病院、事業所等に勤務する者

### (情報発信)

第5条 協議会の活動結果の概要については、意見の発言者などが特定されない形式で、広く公表することとする。

### (事務局)

第6条 事務局は、札幌市新幹線推進室及び鉄道・運輸機構北海道新幹線建設局が担う。

### (その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会で定める。

### 附 則

- 1 この規約は、令和3年12月5日から施行する。